

経済概況

金融政策レビュー — 2023年11月

2023年11月29日（水）

“金融政策委員会は政策金利（OCR）を5.50%で維持することに本日合意しました。”

一方で：

「インフレが依然として高すぎるため、政策委員会は依然として引き続きインフレ圧力を警戒している。」

つまり：

「政策金利（OCR）は引き続き制限的な水準に維持する必要があり、そうすると需要の伸びは引き続き抑制され、インフレ指標は1.0%~3.0%の目標指標に戻るだろう。」

国内では：

「賃金上昇はここ最近のピークからは緩和された。雇用の需要は和らぎ、求人広告は現在、コロナ禍以前の水準より減っている。それと同時に、国内移民流入により人口が増え労働の供給にも繋がっている。」

注意点：

「インフレ圧力が予想以上に強まれば、OCRはさらに引き上げる必要があるだろう。」

世界的に：

「国際的には、経済成長は今年初めの予想を上回っているが、依然としてトレンドを下回っており、さらに減速する可能性が高い。この低迷する成長見通しは、引き続きニュージーランドの輸出収入を抑制するだろう。」

結論：

「金融政策委員会は、消費者物価上昇率が目標に戻り、持続可能な雇用に最大限に支えるために、金利を長期間制限的な水準に維持する必要があることに合意した。」

コメント：

「会合に先立ち、全てのエコノミストによって評決は変わら

ないであろうと予想されていたが、RBNZ総裁のアドレイン・オア氏は、彼の好きな「トレンドに逆らう」という方法をとりました。ほとんどの主要中央銀行が、現在の制限的な政策金利をより長く維持する意向を示しており、さらなる引き締めに前向きであることを理由に、この政策を正当化しています。インフレ率は2024年第3四半期に1.0%~3.0%の水準に戻るだろうとする一方で、中央銀行は現在、2025年半ばまでOCRを引き下げないと予測しているという矛盾が残っています。このレトリックを「受け入れる」かどうかは議論の余地がありますが、RBNZの物価安定の目標としての任務は、「インフレ率を中期的に1.0%~3.0%の間で維持すること」であることを忘れてはなりません。

その中期的が何で構成されるかを議論することもできませんが、私たちは2024年第3四半期が妥当な指標であろうと示唆しています。そうであれば、総裁は今日の会議でOCR引き下げることもできたはずでしょう。

以上、私たちは休暇に入ります。まあ、私たちはそうではないかもしれませんが、RBNZは基本的に2024年2月28日の次の会議までは自動返信メールの「現在不在しております」のような返答をするでしょう。もちろん、今後数日間いくつかの引用やスピーチが発表されるであろうが、中央銀行からはそれ以上を期待するべきではありません。

マーケットへの影響：

誰もがOCRは変わらないと予想している中、中央銀行の2024年のOCR予測が引き上げられるとは誰も予想していませんでした。金利見通しの高まりにより、NZドルは対米ドルで4ヶ月ぶりの高値となる0.6200を超え、一方、NZドル/円は8年ぶりの高値となる90.90円を更新しました。

簡単に言うと、NZドルはすべてのクロス取引の中で高く、世界の中央銀行がタカ派的な姿勢を徐々に後退させ始めているため、今後さらなる上昇が期待できます。

国内のスワップ金利も同様にショートエンドで10-12bp、ロングタームで7-9bp高値と開きがありますが、ロンドン/NY市場のセッションで国際的な動きが優先され始めると、この勢いはすぐに衰えるでしょう。



BANCORP
BANCORP TREASURY SERVICES LIMITED

Barrington
TREASURY SERVICES

Barrington
ASSET CONSULTING



BANCORP
BANCORP CORPORATE FINANCE LIMITED